



第2回 桜の森公園・春まつり～広がれ平和の輪～ 開催決定！

本年の4月7日（土）、市民の会が発足して10年、市制75周年という節目を記念して、「桜の森公園」で春まつり～広がれ平和の輪～を開催いたしました。その後、第10回総会や反省会において、この催しを続けて欲しいとの意見を多数いただいたことから、今年も継続して実施することになりました。

第2回目からはこれまでのご意見等を踏まえ、『桜の森公園・春まつり～広がれ平和の輪』実行委員会を組織して、当会が主体となって進めていくことになりました。本年10月にはその第1回実行委員会を開き、委員長に竹内宏行さん、副委員長に青井和徳さんと桐生小百合さんを選任し、月1回のペースで打合せ会を開いてまいりました。そして開催日程、開催場所、内容を次のように予定することにしました。

開催日程 ; 2019年3月30日（土） ※雨天順延：3月31日（日）

開催場所 ; 桜の森公園 備蓄倉庫前・自由広場

内容 ; 戦争遺跡とモニュメントの話、戦争遺跡パネル展、アコースティックライブ、物産展、空に舞う子供の遊び、等

市制75周年
桜の森公園・春まつり
～広がれ平和の輪～

※と き 2018年4月7日(土) 午前10時30分～午後2時30分(※雨天順延 4月8日(日))
※と ころ 鈴鹿市防災公園・桜の森公園内、備蓄倉庫前広場(鈴鹿市南玉造町)
★イベント
○オープニング 前田コニツフリューシュ 広光雄助さん、村田篤紀さん、
○お話し 「鈴鹿海軍航空隊について」 清岡 伸先生(元教員)
「モニュメント制作への思い」 三村 力先生(元教員)
○アコースティックライブ
○観光物産の販売
○鈴鹿市の戦争遺跡パネル展示

主催 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
後援 鈴鹿市・鈴鹿市教育委員会、鈴鹿工業科学大学、
(株)ケーブルネット鈴鹿
協力 鈴鹿市観光物産協会、AGF鈴鹿株式会社
問合せ先 市民の会代表 竹内宏行 TEL090-2772-1476

開催場所・内容については、第1回の活動内容などを踏襲しながら、桜の森公園を管理する市街地整備課と事前協議を重ねてまいりました。そうしたなかで、来春の新たな催しとして、この地域一帯は「鈴鹿海軍航空基地」であったことに因み、竹とんぼ・紙飛行機・凧揚げなど『空に舞う子供の遊び』を会場の一角で予定しております。また、こうした遊びに興味・関心のある方のお手伝いを探しており、ご連絡をお待ちしております。今後、活動内容等が正式に決まりましたら早急にチラシ等でご案内をいたしますので周知とともにご参加のほどをお願いいたします。第1回の春まつりは、寒さが身に



しむ1日でした。2回目は温かい満開の桜の下で開催されることを今から祈っております。

【今年度のチラシとライブの様子】

「鈴鹿市ができたころ」

～市制76周年記念講演と資料展 神戸公民館で開く～

76年前の1942(昭和17)年12月1日、2町12村が合併して鈴鹿市が誕生しました。最初の市役所があった場所、いまの神戸公民館(鈴鹿市神戸2丁目)で、12月2日、「市制76周年記念一戦争遺跡資料展と講演会」を開催しました。市民の会ができてから毎年、主に各公民館を巡ってこの時期に開催している大事な催し。今年は鈴鹿市郷土史研究会と共催し、神戸地区の自治会にも協力していただきました。会場の都合でこの日1日だけの開催でしたが、戦争遺跡の写真パネルや戦時中の資料を見ていただいた方は約50人、講演会は41人が聴いてくれました。

講師は元中学校教員で市民の会会員の浅尾悟さん。冒頭、1941年12月8日の真珠湾攻撃の写真を見せました。何とカラー写真。「アメリカ側から入手した写真。アメリカはすでにカラーでした」。1年後、鈴鹿市が誕生する。「新聞の見出しは『全国198番目の市。類例のない都市創造』。鈴鹿海軍工廠の円滑な運営のための合併でした」。海軍工廠の建設計画では豊川より鈴鹿の方が先行していたが、国会議員の力で豊川に東洋一といわれる鈴鹿の何倍もの巨大な海軍工廠ができた。終戦間際の8月7日、この豊川海軍工廠が標的となり、2600人余の犠牲者を出す空襲を受けた。「それが鈴鹿になったかも」と浅尾さん。

合併に至る詳しい経緯、海軍、陸軍それぞれの軍事施設の概要、戦後の白子分離問題、旭ダウ(旭化成)、倉毛紡績(鐘紡)、本田技研と続く旧軍施設への工場進出について語られた。「写真で見る神戸地区の戦前・戦中・戦後」として、バケツリレー、竹槍訓練、国防婦人会、松脂取りなど戦時中の写真ほか、にぎやかだった神戸の商店街、石取り祭、寝釈迦祭など戦前の写真も披露されました。

【参加者の感想】

★大変素晴らしい企画展、および講演会をありがとうございます。ここ神戸公民館でとても貴重な資料やお話を伺うことを非常に嬉しく思っている者です。以前から私は博物館などの文化施設めぐりを興味のひとつとしている者です。資料類の一部は名古屋市博物館の常設展示にも似たものがあり、個人的には興味のある時代(廃藩置県以降)のものでした。来年には元号もかわり「昭和」は遠い時代となりますが、このような意義深いお話は今の中学生たちにも是非聞いてもらいたいものだ、と思いました。機会があれば市内の中学生、皆に勉強してもらい、より鈴鹿市を理解して欲しい、とも思いました。最後に、浅尾先生をはじめスタッフ関係者の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。(鈴鹿市、男性)

☆鈴鹿市の発展をわかりやすく説明していただき有難うございました。(鈴鹿市、男性)

★毎回、毎回、とてもわかりやすく、興味深く聴かせていただきます。また次回も楽しみにしています。(鈴鹿市、男性)

☆浅尾先生に詳しくお話して頂き大変良かったです。わかりやすかったです。年代表、写真もあり歴史がわかりました。(鈴鹿市、女性)

★なつかしくもあり、なかなかおもしろかった。(鈴鹿市、女性)



☆本日の展示、講演、貴重な資料に基づき詳細にスライドで説明され、大変良く、今まで知らなかった事柄も勉強になりました。昔の貴重な資料、写真など収集された苦労に敬意を表します。鈴鹿市の誕生について町村の合併の経過、大変、勉強になりました。有難うございました。今後も少ない予算の中で大変ですが、是非若い世代へ伝え知らせてもらえばと思います。(鈴鹿市、男性)

★よい企画でした。特に鈴鹿市の生い立ちがよくわかりました。中心市街地ももたずに市が誕生した経緯もよくわかった。写真がなつかしい！(鈴鹿市、男性)



見学会「ピースあいちと笠寺・半田の戦争遺跡」

第2回「先進的な平和ミュージアム見学会」は10月20日(土)に開催されました。昨年の滋賀県に続き、2回目、20名の参加者は今回も岩脇彰さんの解説でフラワーパークの駐車場を9時に出発しました。最初の見学地は名古屋市名東区にある「ピースあいち」。館員からの展示説明のあと、館長さんらのこの資料館の設立にいたる経緯や現状についてお話がありました。名古屋市との折衝の困難な状況や資金問題など紆余曲折を経て、個人の土地と資金の寄付による建設に至る経緯は私たちの平和資料館建設に向けての貴重な教訓となりました。2箇所目は名古屋市南区の「見晴台考古資料館」。本来は弥生時代を中心とした遺跡展示をする資料館ですが、資料館が位置する笠寺台地は戦時中「高射砲陣地」が築かれ、その跡地について竹内学芸員から説明を受けました。考古学の対象に「戦争遺跡」を位置づけた先進的な資料館です。

3箇所目は半田市の「弾痕のある赤レンガ建物」。ビール工場(カブトビール)の巨大なレンガ建物で、中島飛行機の工場に転用されていた戦時中、1945年7月15日の半田空襲によるP51戦闘機による銃弾跡がたくさん残っていました。最後に半田市の「雁宿公園」を見学。それほど大きくない公園に数々の戦跡モニュメントがあり、中でも半田市が建てた戦争慰霊碑は戦時中に空襲などで犠牲になった動員学徒などすべての人の名前が刻まれ、強制連行されていた朝鮮の人々の犠牲者も調べ上げて名前を記すという半田市の戦争と平和に対する意識の高さに感服しました。昼食もスーパーで買い求めてバス内で食べ、帰りの到着も遅れるほど内容も濃く、今回の見学会では平和資料館や市政のあり方を再認識し、鈴鹿市の平和資料館建設に向けての多くのヒントを得た充実した見学会でした。



【「ピースあいち」で説明をきく】

【参加者の感想】

★(「ピースあいち」に参加して) 館長さんはじめ3人の方から説明を頂きましたが、設立の運営のご苦勞がヒシヒシと伝わってきました。館内の展示物の説明も非常に解りやすくもう少し見学時間がほしいと思いました。今年一番衝撃を受けた写真の一枚「焼き場に立つ少年」亡くなった弟と思われる幼子を背負い、唇をかみしめ焼き順を待つ少年。長崎原爆後の直立不動の姿。何度見ても涙が出てきます。ローマ法王の世界への発信ではなく日本のリーダーがやる

べき仕事のはず。私は「立命館大学国際平和ミュージアム」へは何度か足を運びましたが、学生さんの姿も多く見られましたが、名古屋は少ないとの事でした。私たちグループは先日「閑宿」近くの戦争遺跡を見学することが出来ました。今後も二度と起こしてはならない戦争について皆で学んでいきたいと思います。(四日市市、男性)

☆「1日でたくさん学ぶ」平和ミュージアム見学会のスタートは「ピースあいち」。友人が退職後、ここのボランティアを始めたので、その運営の機能的なところも、人間関係のちょっと面倒な部分も聞き及んではいる。でも私たちの到着を待ちかねてくださり、あれもこれもと懸命に説明をしてくださるメンバーの皆さんには感動。狭い会場に工夫を凝らした展示がびっしり。秋のことも企画展「戦争と動物たち」は興味深いものだった。子どもたちが育てた犬やウサギなどが毛皮にされて戦場へという歴史も些細なことかもしれないが、戦争はこうして人々の暮らしや思いを踏みじると痛感する。「ピースあいち」の開設に大きな貢献をされた加藤さんについては、後日友人との話題にのぼった。「その後、自宅で生活できなくなり老人ホームに入られたのだけど、西日の入る一番小さくてお金のかからない部屋を選ばれたそうよ」。それにしても名古屋市内の学校からの生徒訪問が少ないというのは、教育行政のありようなのか、残念至極である。次に見晴台考古資料館、一人になっても3人分はしゃべって動き回ると思われる竹内学芸員(先日、朝日新聞にでていらっしやいましたね)のエネルギッシュな案内で旧石器時代の遺跡から、高射砲陣地跡まで見せていただく。そして半田雁宿公園。当時10歳の加藤二三子さんが紀州で被災されたあの東南海地震、三重県の被害も大きかったが、戦時中ゆえ「隠された地震」と言われたものだ。その時半田では、中の柱をすっかり除いた飛行機工場地震に遭い、下敷きになって多くの動員学徒が死んだ。「地震は天災でも、戦争中の地震、これは人災です」という加藤さんのことばが浮かぶ。また戦争犠牲者の追悼碑に朝鮮人労働者の名前も刻まれていることに驚く。慰霊のことばにも

「特に当時日本の植民地とされていた朝鮮北部から連行された49人以上の青年がこの中に含まれていることに痛ましいことです」と特筆されている。たった1日でたくさん見て学ぶことができた。企画してくださった事務局の皆さん、いつもわかりやすく丁寧なガイドをはしてくださる岩脇先生に心から感謝します。ありがとうございました。(鈴鹿市、女性)



【見晴台考古資料館・高射砲陣地跡】

平和につなぐ戦争遺跡保存に取り組んで10年東海交流会で報告

戦災・空襲記録づくり第34回東海交流会が12月9日、ピースあいちで開かれ(22団体50人が参加)、市民の会の共同代表、竹内宏行が「豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会」と「静岡平和資料館をつくる会」とともに特別報告をしました。「平和につなぐ戦争遺跡保存に取り組んで10年」と題した、以下はその報告要旨です。

【航空隊跡地の公園で春まつり】

この春、鈴鹿海軍航空隊があった鈴鹿市の公園で初めて春まつりを実施した。題して「桜の森公園・春まつり～広がれ平和の輪～」。この場所にはかつて鈴鹿海軍航空隊があり、旧海軍の巨大格納庫3棟(2棟は縦40m、横80m、高さ10m、1棟は40m四方、高さ10m)が残

っていた。取り壊しを阻止しようという約1万3千人署名も空しく2011年、取り壊されてしまう。格納庫があったことを後世に伝えるモニュメントを、この公園の一角に作った。できて3年目の今年、その意義を知ってもらおうと「春まつり」を企画した。

【格納庫のあったここから始まった】

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」は2009年3月に設立した。今年で丁度10年目になる。設立の2年ほど前、鈴鹿市考古博物館が数回にわたる「鈴鹿市の歴史」講座を催した。受講した加藤二三子さん(初代共同代表)は最終回の近現代編(講師は岩脇彰さん)を聴いて、鈴鹿海軍航空隊の巨大格納庫がまだ3棟残っていることを知った。小栗康平監督の「埋もれ木」という映画の撮影にも使われ、加藤さんも撮影ボランティアの中心メンバーだったが、そのときは戦争遺跡として価値のあるものだとは知らなかった。この講座で初めて重要性を認識。「ぜひ残さねば」と長年培った人脈に呼び掛け、1年間の準備期間を経て会をスタートさせた。

【1万3千人の署名も空しく】

市民の会設立の準備段階からこの格納庫を保存するよう鈴鹿市と鈴鹿市文化財調査会に要望書を提出(2008・6)。第12回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会では「鈴鹿海軍航空基地格納庫群の保存」について特別決議(2008・8)をしてもらった。しかし、会ができてちょうど1年後の2010年3月、戦後、跡地を所有していたNTT西日本と鈴鹿市が話し合っ、案じていた取り壊し計画を打ち出す。私たちは「すずか平和館」「すずか芸術文化館」「すずかスポーツ館」として格納庫を活用するプランを打ち出すとともに、1万3千人の署名を集めて、NTT西日本と鈴鹿市に提出した。が、それも空しく2011年、取り壊されてしまう。解体直前にはNTT西日本と話し合っ格納庫の見学会を実施。解体したあと部材の一部をNTT西日本から提供してもらった。

【初めて知る鈴鹿市誕生の歴史】

保存を求めるこの取り組みを通じて、私たちは初めて、鈴鹿市が軍都として誕生した歴史を学んだ。昭和17年(1942年)12月、軍主導で2町12村が合併して生まれた。東西に流れる鈴鹿川をはさんで北側に北伊勢陸軍飛行場、陸軍第一航空軍教育隊、陸軍第一気象連隊などの陸軍関係、南側に鈴鹿海軍工廠、三菱重工、鈴鹿海軍航空隊などの海軍関係の軍事施設ができた。市域の9%を占めた。城下町は城を中心に街が形成されており、市の姿が分かりやすいが、鈴鹿市はへそのない感じの街。誕生の歴史を知ってその謎が解けた。軍主導で誕生した鈴鹿市、そのときの伊勢新聞に「類例のない都市創造」と書かれた。同じような町村合併をして半年後に豊川市と春日井市が誕生している。鈴鹿海軍工廠跡地に本田技研が進出するなど、戦後、多くの工場が立地。鈴鹿市の発展をもたらした。市民の半数余が戦後、移り住んだ人たち。また、戦後生まれが大半を占める。保存運動を通して私たちだけでなく多くの市民が市の原点を知ることができた。

【次への挑戦—平和資料館を】

貴重な戦争遺跡、巨大格納庫が壊されたからといって、まだほかにたくさんの戦争遺跡が市内に残っている。軍都として誕生した市の歴史を後世に伝えていかねばならない。会を解散する選択肢はなかった。次の展開を打ち出した。戦争の記憶と不戦への思いを象徴するモニュメントの建立と格納庫の部材を生かした平和資料館の設立だ。モニュメントは元県立飯野高校美術教師の彫刻家、三村力さんに作ってもらった。幅4m、高さ6・4m、奥行き2・6m。4本の石柱の上にならせん状のステンレスパイプを載せた作品だ。完成



式に合わせて、冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」を発行、募金してくれた人や会員に配り、小中学校にも寄贈した。平和資料館は公立民営の方針を打ち出し、空き教室などの確保ができないか、鈴鹿市に要望を続けている。格納庫の部材は市の文化財倉庫に保管してもらった。今年、保管期限が来て、会員宅に移した。平和資料館をどう実現するか。正念場にきている。

【春まつりにかけるもの】

毎年、以下のような活動をしている。

- ・総会と記念講演会(3月か4月)
- ・市主催の平和への祈り展への参加(6月か7月)
- ・夏休み戦争遺跡親子見学会(7月)
- ・先進的平和ミュージアム見学会
- ・鈴鹿ハンター・風の街の文化祭参加の写真パネル展(10月)
- ・市制記念日の写真パネル展と講演会(12月1日前後)

これに今年から「春まつり」が加わった。この公園は電通学園時代から桜の名所。多くの市民が集まる。そこでモニュメントの意義を考えてもらおうと企画した。来年以降も毎年開催しようと「実行委員会」をつくった。市民の会以外の人たちにも呼びかけ、幅を広げた実行委員会にした。来春は3月30日に開催する。今年やった音楽ライブや飲食屋台だけでなく、「空を舞う」子どもの遊びも展開する。鈴鹿海軍航空隊のあったこの地で毎年春まつりを続けていくことで、会の運動を市民に大きく広げ、平和資料館の実現につなげていきたいと考えている。

鈴鹿ハンター『風の街の文化祭』でパネル展示

10月21日(日)鈴鹿ハンターで開かれた恒例の『風の街の文化祭』に参加して、今年も戦争遺跡の写真・パネル展を開催しました。当日は天候に恵まれ、沢山の買物客や舞台出演者バザー出店団体の人達で賑わう中、買物のついでにパネル写真展に関心をもって見学していかれる親子連れや若い人・高齢者等幅広い層の人達に見て頂くことができました。

今年はパネルの数も多く、早朝から展示準備に駆けつけてくださった世話人と有志の方お疲れ様でした。縁の下の力持ちとして支えて頂く方のお蔭で活動が継続されています。これからも鈴鹿市の戦争遺跡を市民の皆様にご覧いただく機会としてパネル展を有意義に発展させたいと望んでいます。ご協力ありがとうございました。



【お詫び】

本年7月29日(日)に開催予定しておりました「第5回戦争遺跡親子見学会」は台風のために中止させていただきました。見学会に申し込みをしていただいた方々には大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。来年夏も見学会は開催を予定しています。多数の参加をお待ちしています。

【発行】 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代 表 竹内宏行、中森成行

〒 510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電 話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

H P <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>

